



われらの母校 母島小中学校

ともに生きゆく 心豊かに

心に映し いつの日も

はるか広がる海原を

青くのびゆくヤシの木を

自由に 明るく たくましく生きる

海にさざめく 波のように

二. 空に輝く 光のように



小笠原村立母島小中学校 校歌

作詞作曲 川幡 潤子

一. 空にはばたく 鳥のように

海にきらめく 波のように

自由に 明るく たくましく生きる

赤く燃えてる夕日を

高くそびえる剣先を

心に映し いつの日も

ともに生きゆく 心豊かに

われらの母校 母島小中学校

## 小笠原村立母島小中学校（令和5年度 開校50周年）

### 教育目標

母島を誇りに思い、  
共によりよい社会を築くことのできる人間を目指し、  
自ら困難を乗り越え、  
思いやりをもって心豊かにたくましく生きる児童・生徒の育成を図る。

- (1) 意欲的に学ぶ児童・生徒
- (2) 自らきたえる児童・生徒
- (3) 社会のために尽くす児童・生徒



児童・生徒数

児童数 28名 生徒数 14名（令和5年4月現在）

住所 〒100-2211 東京都小笠原村母島字元地

電話 04998-3-2181/2182 FAX 04998-3-2184

HP <http://www.hahashouchu.ogasawara.ed.jp/>

母島で教え、教わる

— 母島という物語 —

浜辺に寄せては返す波のように、母島では出会いと別れが繰り返されています。それらは人と人とのつながりを生み、物語が紡がれています。ひとつひとつの物語は静かに積もっていき、やがてこの島のもつ歴史の一部となっていくきます。私たち教員にとってこの島で働くということとは、母島という物語の流れに加わることを意味しています。

母島は美しいところです。島の自然が織りなす風景が美しいのはもちろんのことですが、子供たちの純粋なまなざしや島の人々の温かさ、地域の行事やその一体感、そういったいろいろが美しいといえます。

## 令和五年度赴任者の声

母島の子供たちの印象は？

着任した時から温かく受け入れてくれました。生徒はみんな明るく純粋で、学習にも意欲的に取り組んでいます。

上の子が下の子の面倒をよく見る。みんな兄弟のように接しています。お世話されてきた経験を自分より下の子にしてあげるといふサイクルがほほえましいです。

互いの良さを認め合い、「みんなで力を合わせよう」とする子供たち。一人一人が主役として行動しようと頑張っています。

東京から約一〇〇〇キロメートル

ル南の小笠原諸島、そこに母島はあります。竹芝棧橋からおがさわら丸で父島へ、そこからははじま丸に乗り継ぐ二航海。母島に着くには二十六時間ほどの時間が必要となります。母島が近づく中で目にする光景が心に焼きつき、忘れられないものになることでしょう。ボンブルーと呼ばれる海の色、島の木々の鮮やかな色合いが作り出す景色。母島での教員としての物語はそこから始まります。

ここで、子供たちとかわり、日々の生活を送る中で大切なものを教わっているような気がします。ここでの経験は教員として、人として人生におけるかけがえのないものとなるはずです。

## 母島ならではの良さ、仕事で

やりがいを感じる時は

どんな時ですか？

小中併設の校舎ため、同じ職員室で小中の教員が連携して九年間を見通した指導や情報共有ができるので、授業改善の参考になる学びがたくさんあります。一人一人に目が行き届きます。子供たちに思う存分かわるこゝとができ、小さな変化や成長も一緒に喜び、会えることが嬉しいです。

## 令和5年度・令和6年度

### 小笠原村小中一貫教育研究推進指定校

☆基礎学力向上のための、少人数指導の工夫

☆総合的な学習の時間を活用した小笠原学習

— 母島小中学校ではこんな先生方を求めています —

- 母島小中学校が目指す教育を理解し、力を尽くしてくれる先生
- 情熱にあふれ、向上心があり、心身ともに健康な先生
- 子供たちはもとより、地域とのかかわりを大切にしてくれる先生

島での生活は大変ですか？

以前の生活より「不便」は多少ありますが、「大変」とは感じていません。むしろ、今までできなかった経験がたくさんできて、生活は豊かになったと思います。

すぐに慣れて、島にないものについて考えることもなくなり、心のゆとりが生まれました。朝は鳥の声で目覚ましよりも早く起きられて、心身ともに健康になったと思います。

内地とすべてが同じ、というわけにはもちろんいきませんが、工夫次第でどうにでもなります。その工夫をすることも楽しいです。内地にいた時より生活する力が向上したと感じています。

